

は必ずしも直線関係を示さない点のあることが認められている。著者らの実験においても、0.07~0.1%附近でたん洗浄率が下り、それ以上の濃度ではまた上昇することが認められたので、その点を究明するために次のような実験を行なった。

2. Na-oleate の溶液について、
表面張力・分散力・可溶化能の測定。

木綿繊維—溶液間の相互作用について、
表面電位・膨潤・吸着量の測定。

3. その結果、表面張力、カーボンブラックの分散力、オレンジ OT の可溶化能等は 0.03~0.15 % まで殆んど濃度に相伴って徐々に変化するが、溶液—木綿繊維間の表面電位、膨潤、吸着量等は濃度 0.05~0.1 % においてややさがる点が認められた。

B-14 洗たくの研究 IV

石けんの希薄溶液中における木綿の洗 浄性について

広島大 ○藤井 清子
日本油脂・研 谷本 宏恵

1. 木綿—石けん溶液の洗浄試験において、通常 0.15~0.2 % までは濃度と共に洗浄率も急激に上昇する傾向にあるが、その間濃度と洗浄率および再汚染率との間に